

Campus Today



松本歯科大学
 発行所 学校法人 松本歯科大学
 長野県塩尻市広丘郷原1780
 ☎ (0263) 52-3100
 www.mdu.ac.jp
 1部60円

学生が台湾高校生と英語でコミュニケーション

台湾の高校2校が本学を見学

本学は国際交流を強化しており、その一環として海外からの修学旅行生の大学見学を積極的に受け入れている。4月から5月にかけて台湾の高校2校が本学を訪問。新北市立板橋高級中学は昼食会で本学在學生と交流し、高雄市立鼓山高級中学の一行も訪れて、大学施設や実習などを見学した。

4月15日(火)は新北市立板橋高級中学一行34人が来学した。創立30年記念棟「常念岳」の間で開かれた歓迎レモニーの冒頭で、長谷川博雅歯学部長は「本学は近年、台湾などからの留学生が増え、インターナショナルな大学になりつつあります。当初雨天の予報が晴天になり、学内の桜も皆さんを歓迎していますので、十分楽しんで

ください」と挨拶し、一行を歓迎した。大学の概略説明の後、生徒たちは本館屋上からの松本平の眺めやソメイヨシノが開花したばかりのキャンパスを満喫し、北アルプスの山々や美しい桜を背景に記念写真を撮り合っていた。高松校長は「高校生の引率で長野県を数十回訪問しているが、大学を訪



本学在學生と交流する新北市立板橋高級中学の生徒たち

問するのは今回が初めてです。このように美しいキャンパスを有する学校は見たことがありません」と本学の環境に深い感銘を受けていた。

病院や学生寮キャンパスを見学した後は、中国料理レストラン「スターダスト」にて交流昼食会が開催された。

本学の第2学年と第4学年の日本人学生10人、台湾からの留学生2人の計12人も昼食会に参加し、交流を深めた。日本人学生たちは英語で自己紹介を行い、各テーブルに分かれて台湾の生徒たちと一緒に食事をした。台湾における高校生活や修学旅行の感想などを聞き、自らは大学の特色やキャンパスライフについて説明した。参加した第4学年の植田三恵さんは「英会話には少し苦労しましたが、台湾の高校生と交流でき、楽しいひとときが過ごせました。これを機に海外から歯科医



来学した高雄市立鼓山高級中学一行

5月16日(金)には高雄市立鼓山高級中学一行27人が来学。長谷川歯学部部長より歓迎の言葉が贈られ、また今年4月から専任として台湾国泰医院より来日している謝宗慈医師が自身の留学経験や歯科医師の仕事について説明を行った。

引率者である王櫻慧図書館主任は「日本の教育システムを学ぼうと、高校や大学を見学できることは生徒にとって貴重な経験になり、彼らの将来設計に役立つことを願っている」と挨拶。また本学の台湾出身校友や在学生の多さに驚いていた。

大学の概略説明後はキャンパスの中庭などを散策し、実習館では第3学年の歯冠彫刻実習を見学した。参加した学生は「これまで怖い存在であった歯科医師という職業に興味を持ちました」と感想を述べていた。

日本に親近感を抱く台湾では修学旅行の行先日本を選ぶ学校が多く、また自然環境が豊かな長野県を訪問する校数は増加の一途である。県内では高校訪問や農村体験を行い、日本文化への理解を深めている。

本学も国際交流活動の一環としてその一助となるべく今後の展開を期待したい。

(秘書課 留学生課 係長補佐 酒井康成)

小児救急で慌てないために チームワークで患者をサポート 第1回小児科勉強会

5月26日(月)、第1回小児科勉強会が病院3階多目的室で開催され、長野県立病院機構本部研修センター副研修センター長の赤嶺陽子先生をお招きし「小児蘇生法—PBL SとPALS理論と実践」と題して講演を行った。

小児科学の塩原正明教授は挨拶で「これを機会に、来院した子どもの症状が急変した場合の

対処法を学んでほしい」と勉強会の趣旨を述べた。参加者には送信機付のカードを配布し、職種や用語の認識度などアンケートをとりながらの勉強会となった。

赤嶺先生は、はじめにPBL S(小児の一次救命処置)のうち胸骨圧迫法、人工呼吸法、AEDの使用法についてそれぞれ説明。乳児の胸骨圧迫法は手のひらで行うのではなく、指2本で胸壁の3分の1の深さまで行うなど、大人と乳児の違いを解説した。

AEDの使用法については、胸などにあるパッドは、成人用と乳児用があり、小学生以上は成人用、それ以外の幼児は乳児用を使うことを説明した。

次に、PALS(小児の二次救命処置)については、病院におけるより高度な救命処置のことで、医師・看護師などが自分



約50人が参加した小児科勉強会

お天気歳時記

元日本気象協会調査役
 お天気コンサルタント
 ありが 淳し
 有賀 淳



6月は気象に関係深い月。

1849年(嘉永2年、緒方洪庵訳述の「病学通論」の出した年)の6月14日からイギリスのデーリー・ニュース紙に気象観測表がのりはじめ、アメリカで天気図をつくり始めた。1860年(桜田門外の変の年)にはオランダで暴風警報を発表。1875(明治8)年6月1日、東京で気象観測を始めた。

日本で最初の天気予報が発表されたのも9年後の明治17年6月1日だった。「全国一般風向キハ定リナシ天気ハ変リ易シ但シ雨天勝チ」。これがその歴史的な予報の第1号。

この予報を担当したのはお雇い外国人のクニッペンゲだった。彼は暴風警報は出したが、机に向ったまま予報を出そうとはしなかった。上司にきつく命じられて考えたあげくやっと出したのがこの予報だった。

第二次大戦後、中国から気象データが入らず、西の天気空白の状態がつづいて、毎日の予報に苦労したが、昭和31年6月1日から中国が待望の大陸のデータを公開。それとともに日本の予報精度が上がった経験がある。ツユ時で予報のいちばん難しい季節だったため、予報官はみなホッとしたことを思い出す。

冷害対策の技術向上した今、ツユでもっとも恐ろしいのは集中豪雨である。6月はその日を当てても大雨の危険にさらされているが、特にツユの後半から7月上旬が集中豪雨の被害がもっとも多い。毎年のように日本のどこかが水害に襲われる宿命をもっている。しかし、この雨が稲を育ててくれる。

主張

「歯と口の健康週間」

6月4～10日は「歯と口の健康週間」。主催は、中央では厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会、日本学校歯科医会、地方では各地の自治体や教育委員会、歯科医師会で、「歯と口の健康に関する正しい知識を国民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見および早期治療を徹底することにより歯の寿命を延ばし、国民の健康増進に寄与すること」を目的として、全国各地で地域住民参加型の各種啓発事業が展開される。



2014年度の歯と口の健康週間の標語

歯の観察/体組織・骨密度測定/フッ化物塗布/唾液から歯の数や活動性を調べるRDテスト/歯並び相談/口腔年齢測定/歯の色測定/親子のよい歯のコンクール/高齢者のよい歯のコンクール/歯垢検査/歯垢検査シヨ/紙芝居や踊り/歯に良い料理試食/石膏で手形作製/歯と口の健康相談/口腔がん検診/食習慣の診断・指導/咀嚼力の診断を行う咀嚼ガム検診/発育歯科検診/むし歯予防のための歯磨き指導/入れ歯相談/動物クイズ/親子で作る歯とお口の川柳・俳句/口臭測定/口腔内カメラによる口腔内診査/位相差顕微鏡を使った口腔内細

各々でのイベントとして、歯

の昭和初期のむし歯予防デポスター

昭和初期のむし歯予防デポスター



昭和初期のむし歯予防デポスター

じさを熟知している筆者などに信じられないほどであるが、水道水のフッ素化などの極端な手段を使うことなく、国際目標の達成に近づきつつあるのは、歯科医学の進歩もさることながら、こうした保健衛生活動の積み重ねの賜物であるに違いない。わが国が世界に誇るべきことである。

例年10月末に開催されていたが、ワイナリーが繁忙になる醸造期と重なることから今年はその期を早めた。本学図書館ホールではワインの試飲と展示販売コーナーが設けられ、大勢のワイン愛好家たちが賑わった。

同日、塩尻市内のワイナリーを巡って特産ワインを楽しむ「塩尻ワイナリーフェスタ2014」(実行委員会主催)が開催された。

先日ニュースで、近畿大学が再来年の新学部開設に合わせ、英語表記をKindai Universityに変更するとありました。以前から、私も新宿などでKindai Nihon Tourist(近畿日本ツーリスト)のSIGNを見ると、可笑しく思っていたので、良い考えだと納得しました。

「歯と口の健康週間」(5月2～8日)の一部とされていたこともあったが、大戦後の48年に「口腔衛生週間」として、現在と同じ時期に復活した。「むし歯の洪水」が一大社会問題となりつつあった58年には、「歯の衛生週間」と改称して、それ以降長年にわたってむし歯予防活動を重点として活発な取り組みが行われてきた。

近年のむし歯の減少、とりわけ子どものむし歯の激減は、かつての「むし歯の洪水」の凄まじさを示している。健康の意義、それを守る方法についての啓発である。

むし歯予防での成果に続く課題は、人口の高齢化が急速に進行しているなかで、QOLを支える重要な柱としての歯と口の健康の意義、それを守る方法についての啓発である。

「Skip Your Life」というのがありましたが、新築住宅の完成見学会の案内でした。Skipはスキップする、すなわち「とばす」とか「抜く」という意味があり、I skip breakfast「朝食を抜く」「I skipped the difficult part「難しい部分をとばした」などのように使います。ですから、Skip Your Lifeは「今の人生(命)をとばさない」「つまり、Meet Your Maker(死んで)神様の下に行きなさい」というニュアンスと同じになります。

先日ニュースで、近畿大学が再来年の新学部開設に合わせ、英語表記をKindai Universityに変更するとありました。以前から、私も新宿などでKindai Nihon Tourist(近畿日本ツーリスト)のSIGNを見ると、可笑しく思っていたので、良い考えだと納得しました。

第1回FD研修会 「松本歯科大学における人間づくり」



ワークショップ形式で熱い討論

2014年度第1回FD研修会が4月5日(土)、図書館形式で行われ、講師以上の教員

本歯科大学における人間づくりをテーマにワークショップ形式で行われ、講師以上の教員

36人が参加。学習者中心のアウトカム基盤型教育(OBE)の考え方に基づき、態度・習慣に的を絞って各学年で学生にどんな人間になってほしいか、どんな能力を身に付けてほしいか、など忌憚のない意見を述べ合った。

OBEとは、教育者が教えることに重きを置く従来型教育ではなく、学習者中心の考え方を活用し、大きな目標に向かって到達度評価を適用するタイプのカリキュラム開発法である。

参加者は6グループに分かれ、テーマごとにメンバーを入れ替え、3回のセッションで討論を行った。学生に身につけてほしい態度・習慣としては、「自主学习ができるために基本的な受講態度を身につける」や「臨床実習を想定し患者さんの前で

学ぶ態度を身につけることができる」「学生が自らの苦手な項目を習得できる」などが挙げられた。

それを実現させるための個別行動目標として、時間を守る、授業に集中する、ノートをつくる、周りの人とコミュニケーションできる、グループで行動し補い合いができる、自己評価の必要性を認識できる、など討論結果が発表された。

安全な生活を送るために 災害時対応や安全運転を再認識

交通安全講習会

交通安全講習会が4月22日(火)、午後6時より本館7階講堂で開かれ、歯学部・衛生学院の学生約400人が受講した。

塩尻警察署の田中政明警備課長は、災害時等における危険か

多湖尚弘生活安全課長代理は日常生活での注意点として、社会常識、日常常識をわきま

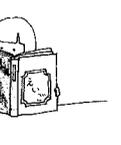


塩尻警察署員による講習会



塩尻警察署員による講習会

カールソンの英語!!!



飯島 勲特命教授が特別講義 内政や外交問題など時局を解説



第4学年の学生に講義する飯島特命教授

飯島 勲特命教授は5月7日(水)、第4学年「社会医療政策学」の授業において特別講義を行った。講義館202教室で学生に政治、経済、外交など日本の現状について解説された。

飯島特命教授は最初に長野県政の歴史に触れられ、1948(昭和23)年、県庁舎の一部焼失を機に分県論が広がり東北信と中南信(旧筑摩県)の分県を決議する本会議が大混乱に陥ったとき、期せずして傍聴席から県歌「信濃の国」が大合唱され、県議会が流会したというエピソードを紹介。「本学が県の中心部に位置していることは、県内の地域間格差や多様性を一つにまとめる象徴のように思われる」と話された。

次に、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる2025年問題を取り上げ、「4人に1人が75歳以上という超高齢社会が到来する。医療、介護、福祉サービスへの需要が高まり、皆さん

が開業するころは歯科医師の時代がやってくる。確かな歯科医療技術、すなわち魔法の手を持つて活躍してほしい」と激励された。

少子高齢化や人口減少により経済成長や国際競争力が低下するのは構造的な問題と指摘し、「解決するためには安定した政権による政策展開が必要。アベノミクスによるデフレ脱却に世界中が注目しているが、安倍内閣は近い将来、さらに血の出るような構造改革をしなければならぬ」と力説された。

原発問題にも触れ、「電力別の発電コストを精査すると原子力発電は自然エネルギーの3分の1のコストで、世界の原発の80%は日本の原発技術で支えられている。即ゼロではなくできるだけ少ない方向にもっていくのが現実的」との認識を示された。

また、日中、日朝、日露の外交問題については「どの国も日本の技術力を必要としている。対話と交流を行って信頼関係を築くべき」との持論を述べた。

さらに日本の政治は多党化の時代になると予見し、小選挙制

眼科学・太田浩一教授が一般講演 デイリーニュース1面に内容掲載

第118回日本眼科学会総会

4月2日(水)〜6日(日)にかけて、東京国際フォーラムと帝国ホテル東京の2会場で、WOC(World Ophthalmology Congress)国際眼科学会2014が開催された。世界135カ国から約2万人の参加となった。そのなかの第118回日本眼科学会総会における一般講演での眼科学・太田浩一教授の発表



掲載された太田教授の発表内容

内容が、毎日発行される「デイリーニュース」2号の1面に掲載された。4頁からなる新聞で、特別講演やシンポジウムの記事以外に一般講演が紹介されるのはごく稀なこと。印象深いこと

により穴が閉じ、視力が回復し、中心暗点がなくなる。この手術においては網膜の最浅層にある内境界膜をはがす手技がゴールドスタンダードとなっている。しかし、正常な網膜組織の一部を除去することで、網膜形態が変化、場合によっては機能低下をきたす可能性がある。

開会式に出席された皇太子と山本一太内閣府特命担当大臣の記事が載り、翌日の同じ1面に太田教授の記事が載った。

今回の発表には、2013年春に導入された新しい光干渉断層計の機能を用い、手術後の網膜浅層厚変化を計測することができた。

太田教授は、黄斑円孔を治す手術により、黄斑円孔周囲の一部(鼻側)は厚くなり、一部(耳側)は薄くなるという形態変化をきたすことを報告した。さらに、手術時に網膜に接触した部分で網膜が特に薄くなっていることを示し、手術侵襲の可能性を示した。

熱・発疹など)発生の可能性を高めてしまう。したがって、少しでもリスクを減らすために一人の患者に使う血液はなるべく小人数からの輸血にする必要がある、今回も同センターから400ml献血へのお願いがあった。今回の献血者の内訳は、400mlが34人、200mlが6人であった。

硬組織研究の拠点をめざして

第13回松本ポインフォーラム

第13回松本ポインフォーラムが5月9日(金)と10日(土)の両日、信州大学医学部附属病院において開催された。この研究会は、松本歯科大学、信州大学および成人病診療研究所(安曇野市)の3医療機関からの世話人により運営・開催されている。今回は、5題の特別講演と8題の一般講演が企画され、70人ほどの研究者や医療従事者および学部・大学院の学生などが参加した。



講演する田口教授

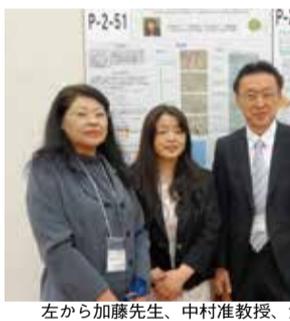
科学教授)より「マウスジェネ

特別講演においては、南康博先生(神戸大学大学院医学研究科教授)が「組織損傷修復や炎症等の病態における非古典的Wntシグナルの役割」と題して、骨格筋の老化について興味深い知見をご講演いただいた。また、秋山治彦先生(岐阜大学整形外

科学教授)より「マウスジェネティックによる軟骨研究」の講演があり、マウスを用いた骨組織遺伝子解析をどのように行うべきかについて最新の情報について説明された。

また、本学総合歯科医学研究所にて研究を行った岡本正則先生(信州大学医学部大学院生)の「Wnt3による骨芽細胞分化調節機構」についての発表が行われた他、小澤英浩名誉教授と高橋直之教授(総合歯科医学研究所)が座長を務めた。今後

第52回日本小児歯科学会大会が5月16日(金)と17日(土)に、昭和大学歯学部小児成育歯科学講座教授・井上美津子大会長の下、東京都品川区立総合区民会館において開催された。



左から加藤先生、中村准教授、大須賀教授、中村講師

本学教員と14期生・加藤直美先生が研究成果を発表

第52回日本小児歯科学会大会

本学からは田口 明教授の「国際顎骨壊死コンセンサスペーパーの概要」が示された。骨粗鬆症治療薬としてのビスホスホネート投与は、顎骨壊死の危険因子にはあたらなとする結論を示したものであった。

また、本学総合歯科医学研究所にて研究を行った岡本正則先生(信州大学医学部大学院生)の「Wnt3による骨芽細胞分化調節機構」についての発表が行われた他、小澤英浩名誉教授と高橋直之教授(総合歯科医学研究所)が座長を務めた。今後

松本市のおお歯科医院・小児歯科医院の加藤直美先生(14期生)は、小児歯科学講座の大須賀直人教授・中村講師の指導の下、「肺動脈狭窄症を呈するフアロー四徴症の患者に口腔管理を行った1例」について口演発表を行い、活発な質疑応答が行われた。

また、今学会の際に開催された日本小児歯科学会の理事会において、中村講師が理事として新たに選出され、大須賀教授と共に理事会に出席し、広報委員会委員としての任を受けた。

女性小児歯科医委員会では、連絡員として本学小児歯科学講座OBである山川洋子先生、伊藤三智子先生、谷田幸代先生および本学中村美どり准教授が出席し、女性小児歯科医OBの設立その他についての討議を行った。



献血に協力する学生

貴い命を救うために 学生ら40人が献血に協力

長野赤十字献血センターの移動採血車による献血が5月15日(木)、本館1階学生ラウンジで行われ学生・職員ら40人が協力した。

献血は安全な血液を安定的に供給することを目的に本学でも毎年実施されており、イントラを通して学内に協力を依頼した。医療現場では、輸血に患者と同じ血液型を使用するが、同じ血液型でも一人ひとり微妙に異なっているため完全に適応するか難しい。何人もの血液を輸血することは、患者の副作用(発

若年層の献血協力者が減少している今、貴い命が救われるためにも献血の目的を再認識し、さらに多くの学生・職員が協力してほしい。なお、次回の献血は11月を予定している。

熱・発疹など)発生の可能性を高めてしまう。したがって、少しでもリスクを減らすために一人の患者に使う血液はなるべく小人数からの輸血にする必要がある、今回も同センターから400ml献血へのお願いがあった。今回の献血者の内訳は、400mlが34人、200mlが6人であった。

Alumni News

松本歯科大学校友会

第35回校友会総会 新年度事業計画・予算等を審議



上回る結果が現れつつある。大学・教員一丸となって今後も各学年に愛情を込めた教育を続けていく」と述べられた。

議事に際し、議長に松田泰明先生（2期生）、副議長に鈴木正一郎（東京都支部長）（5期生）、議事録署名人として小口久雄先生（1期生）、小林 尊先生（7期生）が選出された。

議事では会議次第に則り、2013年度の事業報告と収支決算、2014年度事業計画と予算、会則の一部変更などについて審議が進んだ。そして活発な討論の結果、予定されていた議事はすべて無事終了した。

なお、今回の総会は本年同様平日をさけ、2015年4月26日（日）に開催することが会長より提案された。

第35回校友会総会が、4月27日（日）図書会館学生ホールにおいて開催され、全国から80人の校友会員が出席して活発な討議が行われた。

議事に先立ち、川本 拓松講義実行委員長（第3学年）から祭実行委員があり、拍手が送られた。

続いて、矢ヶ崎 雅会長の挨拶では「校歌に記された校友精神」に触れつつ、大学人材を最大限に生かした歯科医療改革並びに選りすぐれた教育について

熱い決意が語られた。そして母校へ寄付された会員へ多大なる感謝の意が示された後、「2022年が創立50周年になる。各大学とも厳しい入学状況を迎えているが、本学では数年の間に万全な体制を整えつつ、人材面もより充実させていく」と結ばれた。

次いで校友会顧問・長谷川歯学部長より「教務多忙にて5年ぶりの出席となる。大学も学費を下げ最大限の努力をしている。その成果として全国平均を



矢ヶ崎会長と握手を交わす川本松講義実行委員長（右）

華やいだ雰囲気の同窓会 13期生観桜会に集う



恩師を囲む13期生

大学の観桜会に合わせて13期の同窓生14人が、4月29日（火・祝）、図書会館2階の校友会会議室に集合した。

大学構内での同窓会は初めてで、卒業以来の母校訪問となる卒業生は新病院・創立30年記念棟などを見て回り、新旧キャンパスに感慨深げであった。

観桜会に招かれていた大勢の恩師の先生方も再会でき、お互いの健勝を慶び合った。

会場の図書会館2階の校友会会議室からは、新病院と満開の八重桜が展望でき、華やいだ雰囲気の同窓会であった。観桜会と抱き合わせの同窓会、他の学年の方にもオススメです。

（口腔衛生学講座 准教授 川原一郎）

矯正治療における先進技術や 矯正臨床の症例等を学ぶ

第30回松本歯科大学矯正同門会

第30回松本歯科大学矯正同門会が4月20日（日）、創立30年記念棟3階「常念岳」の間に開催され、昭和大学歯学部歯科矯正学講座教授の横 宏太郎先生とスマイル矯正歯科院長の高木伸治先生（5期生・札幌市）が講演された。

横先生は「矯正治療における先進技術の導入と展開」と題して、矯正治療の意義や、最近さまざまな矯正治療方法などについて説明していただいた。

矯正治療の意義としては、う蝕や歯周疾患の予防、審美・機能改善などが挙げられるが、より長期的にヒトの一生における咬合を捉えると、将来「補綴治療が著しく困難である症例（すれ違い咬合や歯冠補綴高径不足、顎位不安定）」となることを、矯正治療により回避することができる」と述べた。

また、診断における生体力学的な咀嚼器官の捉え方を、個別的な有限要素解析を用いて顎顔面発育や咬合などについて分かりやすく紹介していただいた。

アライナータイプの矯正装置であるインビザライン治療の限界と可能性については症例を供覧しながら説明し、無理な移動や急な使用ではBowing effectをもたらすこと、歯冠の形状により荷重効率が低下することなどを述べた。細直径の超弾性ワイヤーを用いた微弱矯正力による治療例では、横先生の開発したスロットが3箇所設置された新型ブラケットが紹介され、参加した会員らは熱心に聴講し、先進技術に関する理解を深めた。

続いて高木伸治先生は「自分の矯正臨床を顧みて」と題し、矯正技術の習得と向上について、

「The Alexander Discipline」、現行の制度や諸問題について、症例を交えながら講演していただいた。英国王立外科協会矯正歯科認定医（MOrth RCSEd）であり、欧州矯正歯科学会ボードメンバー（EBO）でもある自身の経験から、矯正臨床の技量は他者に審査して貰うことで量るべきであるとして、技術の習得や向上に審査が大切であることを述べた。

また、Alexander Bracketを用いた矯正治療におけるコンセプトや利点を挙げつつ症例を供覧し、良質な治療、長期安定を達成し、患者の満足度を得るための基盤を説明していただいた。難症例や長期安定症例などを交えた矯正臨床に即した講演に対し、会場では活発な意見交換がなされ大盛況のうちに閉会した。

（歯科矯正学講座 講師 倉田和之）



矯正の治療法を説明する横先生



講演をする高木先生

大学院セミナー

信州大学・錦織広昌准教授が講演 「インプラント材料への応用を考えた 金属チタン表面の構造制御」

第29回4回大学院セミナーが5月21日（水）に、信州大学工学部環境機能工学科・錦織広昌

准教授を講師に迎えて「インプラント材料への応用を考えた金属チタン表面の構造制御」の講演と討論が行われた。

講演では酸化チタンに関する最新の物理化学的知見を紹介し、錦織先生が自ら新開発したアナターゼ型酸化チタンの歯科医療への応用方法を提唱した。

インプラント材料である金属チタンは、表面を酸化チタンの不動態膜で覆われており、骨などの生体組織は、この酸化チタン不動態膜を相手にしてオッセオインテグレーションなどの生理活性を営む。酸化チタンは生体内で極めて安定、安全な性質

を示す一方で、その結晶体は光触媒作用をもち、多くの産業用途に用いられている素材である。現在の歯科インプラントに用いられる金属チタンの表面は、無制御でさまざまな状態の酸化チタンであるが、錦織先生は酸化チタン結晶の制御方法を開発し、アナターゼ型単体の酸化チタンを不動態膜とすることに成功した。光触媒作用が強いアナターゼ型の酸化チタンは、光照射によって表面電位などの性質を変化させることができる。今後、このアナターゼ型不動態膜をもつチタンインプラントの医療応用研究が必要である。



講演をする錦織先生

人事異動

〔配置換え〕 4月1日付
音楽 淳一（歯学部教授・歯学部准教授）
〔兼務〕 4月1日付
吉成 伸夫（総合診療科長）
山本 昭夫（総合診療科長）
黒岩 昭弘（総合診療科長）
篠原 淳（総合診療科長）
澁谷 徹（総合診療科長）
山田 一尋（矯正歯科長）
田口 明（小児歯科長）
大須賀直人（特殊診療科長）
小笠原 正（総合診療科長）
藤井 健男（総合診療科長）
植田 章夫（口腔シラントセラピー科長）
前島 信也（内科長）
太田 浩一（眼科長）
塩原 正明（小児科長）

6月行事予定

〔採用〕 5月1日付
長内 秀爾（歯学部教授・放射線学講座）
望月 慎恭（歯学部助教授・放射線学講座）
脇本 仁奈（病院助教・総合診療室）
7日（土）三者面談 第1・6学年
10日（火）第43回父母会総会
14日（土）諏訪社・稲荷社例祭
16日（月）第41回解剖諸霊位慰霊祭
17日（火）第41回実験動物供養祭
17日（火）1期試験 第5学年
26日（木）27日（金）大学院発表会

指導医・認定医

2013年9月1日
中村 浩志（小児歯科講座講師）
日本小児歯科学専門医指導医

Economic News

内外の経済 5月28日付

東京外国為替相場と各国定期預金金利 (3ヵ月物)

米ドル	102.95円	0.01%
英ポンド	172.40円	0.10%
スイスフラン	114.70円	0.01%
ユーロ	140.05円	0.01%
タイバツ	3.21円	0.01%
日本円	—	0.01%

(シティバンク調べ)

日本	14,688.49円
米国	16,675.50ドル
▶金地金店頭価格 (消費税込み)	
売り (1グラム)	4,525円
買い (1グラム)	4,439円
▶白金地金店頭価格 (消費税込み)	
売り (1グラム)	5,236円
買い (1グラム)	5,108円

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

一日体験入学

① 7月6日(日) ② 7月13日(日)
③ 7月20日(日) ④ 7月26日(土)

※7月開催分のみ掲載
開催時間 9:45~15:00 (受付 9:15~)

●キャンパスツアー ●ランチ体験
●模擬実習 ●入試説明・進学相談 など

※参加希望の方は、本学ホームページから申し込みされるか、専用申し込みハガキを下記までご請求ください。

■お問い合わせ■

HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp